

武藤貞一 （たけふぢ） 評論家。明治二十五年七月（二十五日岐阜縣生れ、昭和五十八年七月二十六日歿（二八九—一九八三）。號鏡浦。大正十二年東京朝日新聞社入社、昭和十一年「大阪朝日新聞」論說委員、十四年「報知新聞」主筆、更に大阪時事新報社副社長兼主筆となり對外強硬論を展開。十七年衆議院選挙に立ちも落選。二十年十一月「自由新聞」創刊。進取解除後時評活動を再開、政経協社、動向社を設立して雑誌「動向」を發刊した。

著書『廿一世紀への道』（大正十一年二月）『自由聚英閣』（『戦争』

（昭和十一年十一月十七日宇佐美出版事務所）、『日支事變と次々來

るもの』（昭和十一年九月七日新潮社）、『抗英世界戦争』（昭和十

二年十一月十五日清水書店）、『英國を撃つ』（昭和十一年十一月一

十三日新潮社）、『白ソ戦に備ふるの書』（昭和十二年十月十一日大日

本雄辯會講談社）、『エダヤ人の對付攻勢』（内題「猶大民族の對日

攻勢」昭和十二年十一月五日内外書房）、『皇民の書』（昭和十四年

五月十日東海出版社）、『白米十年戦争』（昭和十六年六月五日興亞

書局）、『少國民の大東亞一年史』（平簡孝・畠水謙吾共著、昭和十

八年四月二十五日東雲堂）、『論策 日本力』（昭和十八年六月十五日

統正社）、『吉田松陰』（昭和十

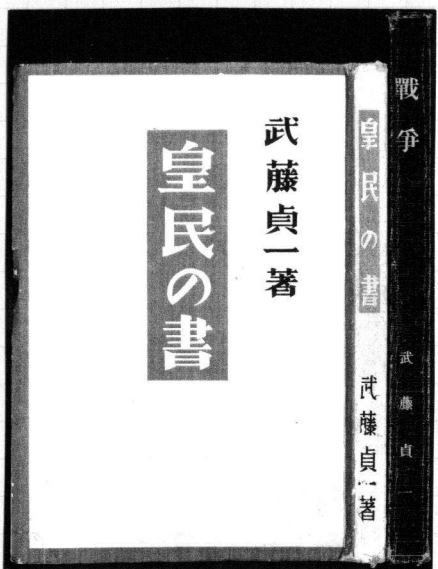
八年六月二十日統正社）、『少年

五十六』（昭和十八年十一月二十

日東雲堂）、『決戦下青年の訴

ふ』（合著・非凡閣編輯局編、昭

和十九年四月十日非凡閣）、『だ



戦争

皇民の書

武藤貞一著

武藤貞一著

皇民の書

まごれくいものハ〇〇萬人一占領憲法論棄論』(昭和)二十八年九月十

五日新紀元社)、『人間の大ぞがれ』(昭和)二十二年七月、二十五年新

紀元社)、『明治の評論と明治人の感觸』(合著・勤向社編集部編、

昭和)四十一年五月十一日勤向社)等。